

.....
題 言
.....

鐵道復舊工事特輯

本號輯むる處の卷頭三十餘の工事寫眞は、大正十二年九月一日 關東大地震に因る 鐵道被害の復舊工事に關する特輯であるが、特に最も被害の甚だしかつた熱海線の狀況である。

馬入川橋梁や箱根方面も猛烈に破壊されたので 其復舊工事も容易の事でないが、其一部狀況は本誌が既に紹介したのものもある。然し 今尙盛んに工事中の個處もあるので實地を視察して參考となる事と思はれる。

兎に角鐵道省の工事は 秩序の正しい事、訓練の行届いてをる點に於て 充分見るべきものがあるので、直轄に請負に論なく 其工法に於ては 必ず學ぶべきものがある。本號纂むる三十餘の鐵道工事寫眞は一葉宛に就て 精密なる研究をせられん事を希望する。

第一線に立つ技術者を行賞獎勵せよ

關東大震災後滿二年を経た今日、土木建築工事界を顧るに 實に多忙を 極めたものであつた。

鐵道を初め各方面の應急工事は 實に戰時状態であつた。總ての 従事員は奉公的精神で努力した。此の時の土木建築は眞劍に机上を離れ、椅子を立つて 唯 單に實行の努力であつた 實際に戰闘的技術の實行であつた。

戰爭には勝てば 必ず行賞があるが、技術的戰闘者に對しては 何等の行賞がない。此理由は種々あらうが、兎に角 不公平たるを免れない。技術界の發達せざる 一原因が此邊にも存するのである、若し 行賞なしとすれば何等か他に物質的の獎勵方法があつて 然るべきだが、之れすらもない。勿論 行賞と獎勵法と云ふ事は 技術者の求めて望むべきものでないかも知れぬが、若し行賞と獎勵法を 實行したるが爲めに 實際的により多くの効果が擧り得るものとすれば行賞獎勵法の實行も 又大に必要なるものではないか。

技術界に軍隊式の階級制度を設ける事は 原より望む事でないが、現場工事の實行 及び之が發達の爲めには 嚴格なる組織的訓練が 必要であり、之が爲めには第一線に立つ技術者は常に死線に立ちて奮闘しなければならぬ。此の奮闘 努力に對して 酬ひらるゝものは何物であらうか、我等は震災後 二ヶ年間の技術界の狀態を見 實に遺憾を感じるものである。尙今後起さるべき多くの工事に對して必ず 何等かの獎勵法を講ぜられん事を 希望するものである。